

角シタル膠白膠ト名クル事アリ、牛ノ皮ニテニクルヲバ阿膠ト云フ、白膠木白膠香ニカワノ白膠ミナカハレリ、

〔倭訓栞前編二十一〕ぬで 倭名抄に白膠木をよめりぬるでの略也、

〔日本書紀二十一〕二年七月明用 是時厩戸皇子束髮於額略而隨軍後、自料度曰、將無見敗、非願難

成、乃散取白膠木、疾作四天王像、置於頂髮、而發誓言、白膠木此云農利選今若使我勝敵、必當奉爲護世四王起

立寺塔略下

〔軍用記五〕軍陣に勝軍木を用る事、日本紀元亨釋昔聖德太子守屋の大連と戦ひ給ひし時、ぬるで

の木を削りて、四天王の像をさざみて、頂の上において戦ひ給ひければ、太子軍に勝たまひしに

よりて攝州四天王寺を建立し給ひし也、其吉例を以て、ぬるでの木を勝軍木とも勝木とも名付

て、是を軍陣のとき用る也、勝軍木本名白膠木はくきょうと云ぬるでともぬりでともいふ木也、

〔重修本草綱目啓蒙二十二〕鹽荻子 フシノキノミ フシノキノキ以下木名 ヌルデ ヌデ濃州

ヌリダ 備前 ユリデ 佐渡 ノデノキ 上尾州 カツキ カツギ カツノキ 奥州 カチノキ

勝軍木 サイハイノキ アカベソ醍醐州 ゴマギ 津輕 ラツカドノキ 信州 ヤマハゼ 土州

ヌウルシ 江戸 一名膚木子藥性 樹鹽丹鉛 烏鹽華夷考 浮木子外臺 鹽醋子廣東 小

血竭百一 主證類 木一名楠木集解 鹽敷樹物理 鹽膚木正字

コノ木山野ニ自生多シ、丈餘ノ高ニシテ喬木ニ非ズ、枝條四ニ繁リ春新葉ヲ生ズ、形漆葉ニ似テ

潤シテ粗齒アリ兩對ス、一葉ノ内節ゴトニ直葉アリテ漆葉ニ異ナリ、夏已後ハ葉ゴトニ泡ツクレヲ生

ジテ、其中ニ蟲アリ、秋ニ至リ早ク紅葉シテ落ツ、ヌルデモミヂト云、山中ニ生ズル者ハ、樹枝或ハ

葉ノ莖或ハ葉背ニ一寸許ノ袋ノ如キ者ヲ生ズ、其形圓扁長短一ナラズ、初青ク後茶褐色トナル、

是蟲ノ巢ニシテ藥用ノ五倍子ナリ、俗名キブシ、末トナスヲフシノコト云、コノ者ヲ生ズル故、木